

平成26年度
高速道路調査会 研究発表会

高速道路の料金制度に関する研究

公益財団法人 高速道路調査会
研究部 安藤 健彦

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 料金制度を取り巻く情勢と課題
3. 中間整理以降の研究について
4. 今後の研究について

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

◆ 研究の目的

高速道路の料金制度の歴史・課題について整理

あるべき料金制度の基本的な考え方を検討

高速道路ネットワークの有効活用に資する
中長期的な料金制度（体系・水準など）を
多角的な観点から検討・整理

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

◆ 委員会メンバー

委員長	杉山 雅洋	早稲田大学 名誉教授	
委員	家田 仁	東京大学・政策研究大学院大学 教授	※
委員	石田 東生	筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授	※
委員	太田 和博	専修大学商学部 教授	※
委員	竹内 健蔵	東京女子大学現代教養学部 教授	※
委員	橘 洋介	八戸学院大学ビジネス学部 専任講師	
委員	根本 敏則	一橋大学大学院商学研究科 教授	※

(敬称略、50音順)

➤ **有識者委員 6名 (上表)**

(※：うち、国土交通省の社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会の委員 5名)

➤ **会社委員 12名**

(道路会社 6社、(株)高速道路総合技術研究所)

計 19名

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

◆ 中間報告書（中間整理）

H21.10
研究開始

約2年間
委員会5回開催

H23.8
中間報告書公表

趣 旨

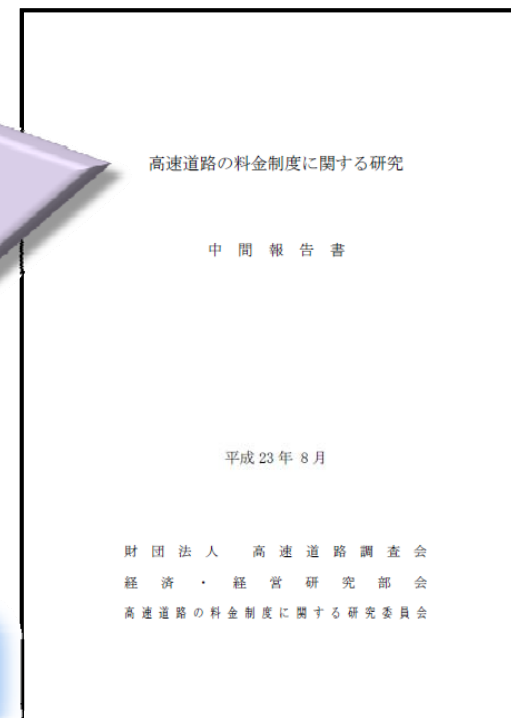
- ✓ 今後の検討に向けた有用な指針
- ✓ 蓄積された知識や知見の散逸・風化の危惧

内 容

- ✓ 我が国の有料道路制度と料金
- ✓ 海外のロードプライシング
- ✓ 料金支払意思額に基づく時間価値の試算



高速道路の料金制度のあり方について（中間整理）



本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会

2. 料金制度を取り巻く情勢と課題

3. 中間整理以降の研究について

4. 今後の研究について

2. 料金制度を取り巻く情勢と課題

◆ 平成25年度の動き ① ～中間答申（H25.6.25）～

中間答申のポイント（抜粋）

維持管理・更新への取組

- ✓ 資金確保のため、料金徴収期間の10～15年程度の延長を検討
- ✓ 償還満了後も維持管理負担を利用者に求め続けることも検討

料金制度のあり方

- ✓ 「整備重視の料金」から「利用重視の料金」への転換を図る
- ✓ 対距離制を基本とし、料金低減に努力しつつ、料金水準を3つに整理
- ✓ 今後の料金割引のあり方
(H25年度で終了する利便増進割引をふまえ)

機動的な交通利用を促す大都市圏の料金体系のあり方

- ✓ 管理主体を超えたシームレスな料金体系の構築
- ✓ 都心通過交通を抑制する料金体系の構築

[参考：国交省 国土幹線道路部会 中間答申（H25.6.25）]

2. 料金制度を取り巻く情勢と課題

◆ 平成25年度の動き ② ～具体的な諸施策～

- 料金徴収期間を15年延長（H26.2閣議決定、H26.5特措法等改正）
 - ⇒ 大規模更新に対応する財源を確保
（延長で賄う更新債務は民営化時債務と区分）
- 本州四国連絡高速道路を全国路線網に編入（H26.3）
- H26.4以降の新たな高速道路料金
 - ⇒ ・ 3つの料金水準への整理
（「普通区間」「大都市近郊区間」「海峡部等特別区間」）
（当面10年間の引下げ、ETC車限定）
 - ・ 料金割引全体の再編
（国費による利便増進割引の終了）
（民営化前後に導入した制度の財源の範囲内に）
 - ・ 消費税率引上げ（5% → 8%）に伴う転嫁

※ 今後の具体的な動き

- 大都市圏の料金 ⇒ ・ 環状道路の整備に合わせ、シームレスな料金体系を導入
- ・ 首都高速はH28年度以降、阪神高速はH29年度以降を予定

2. 料金制度を取り巻く情勢と課題

◆ 残された主な課題

- 老朽化などへの対応
 - ⇒ ・ 今後、永続的に必要な更新費の負担のあり方
 - ・ 更新以外の維持管理に係る将来の負担のあり方
- 交通流動を最適化するネットワーク利用
 - ⇒ ・ 大都市部におけるシームレスで公平かつ、利便性を高める料金体系
 - ・ 都心部の通過交通を環状道路へシフトさせる料金体系
 - ・ 地方部の有料と無料が混在する区間の整理
- さらにシンプルで合理的かつ、持続可能性の高い料金
- ETCの標準装備化
- 車種間料金比率の再検討

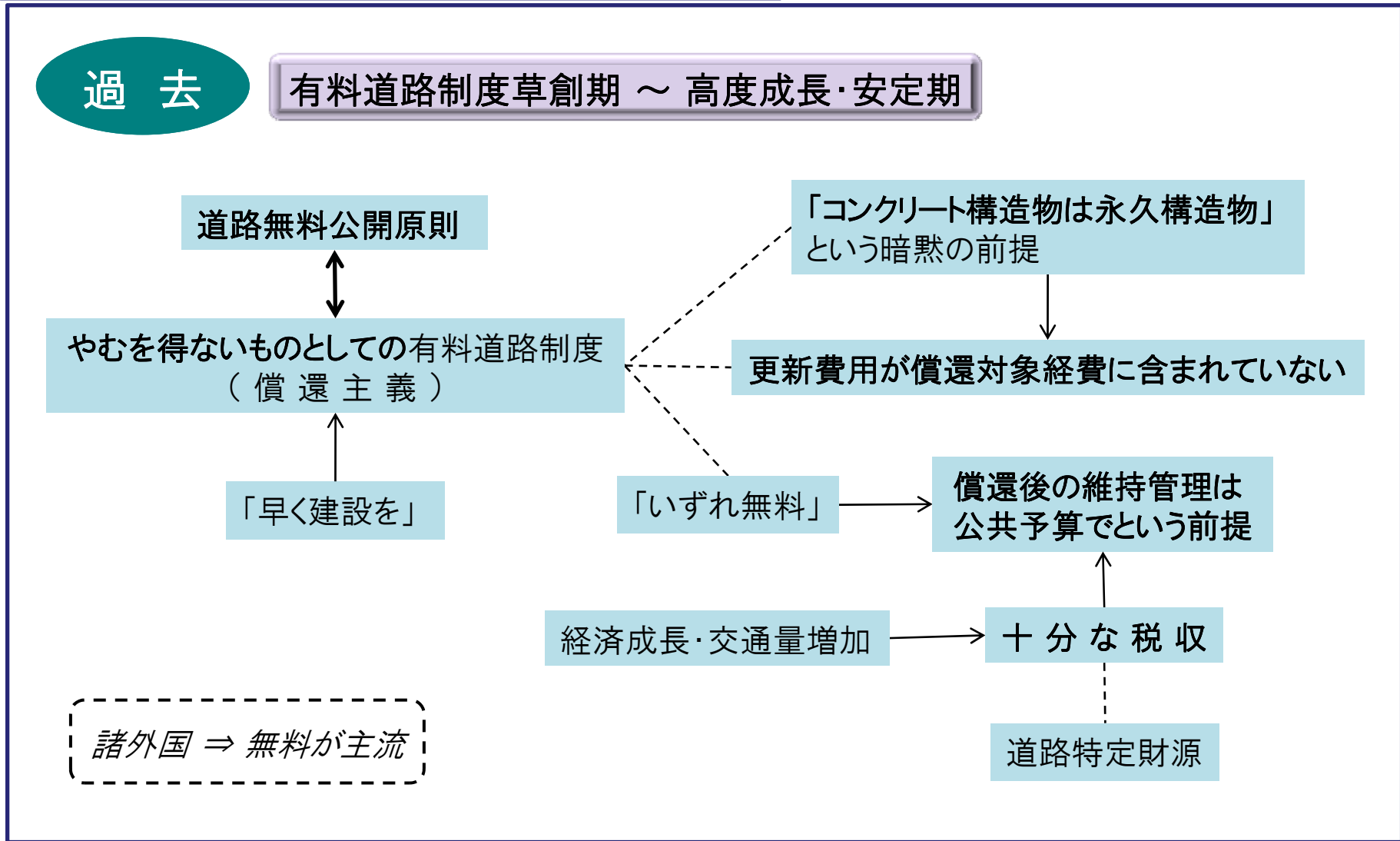
[参考：国交省 国土幹線道路部会 中間答申（H25.6.25）]

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 料金制度を取り巻く情勢と課題
- 3. 中間整理以降の研究について**
4. 今後の研究について

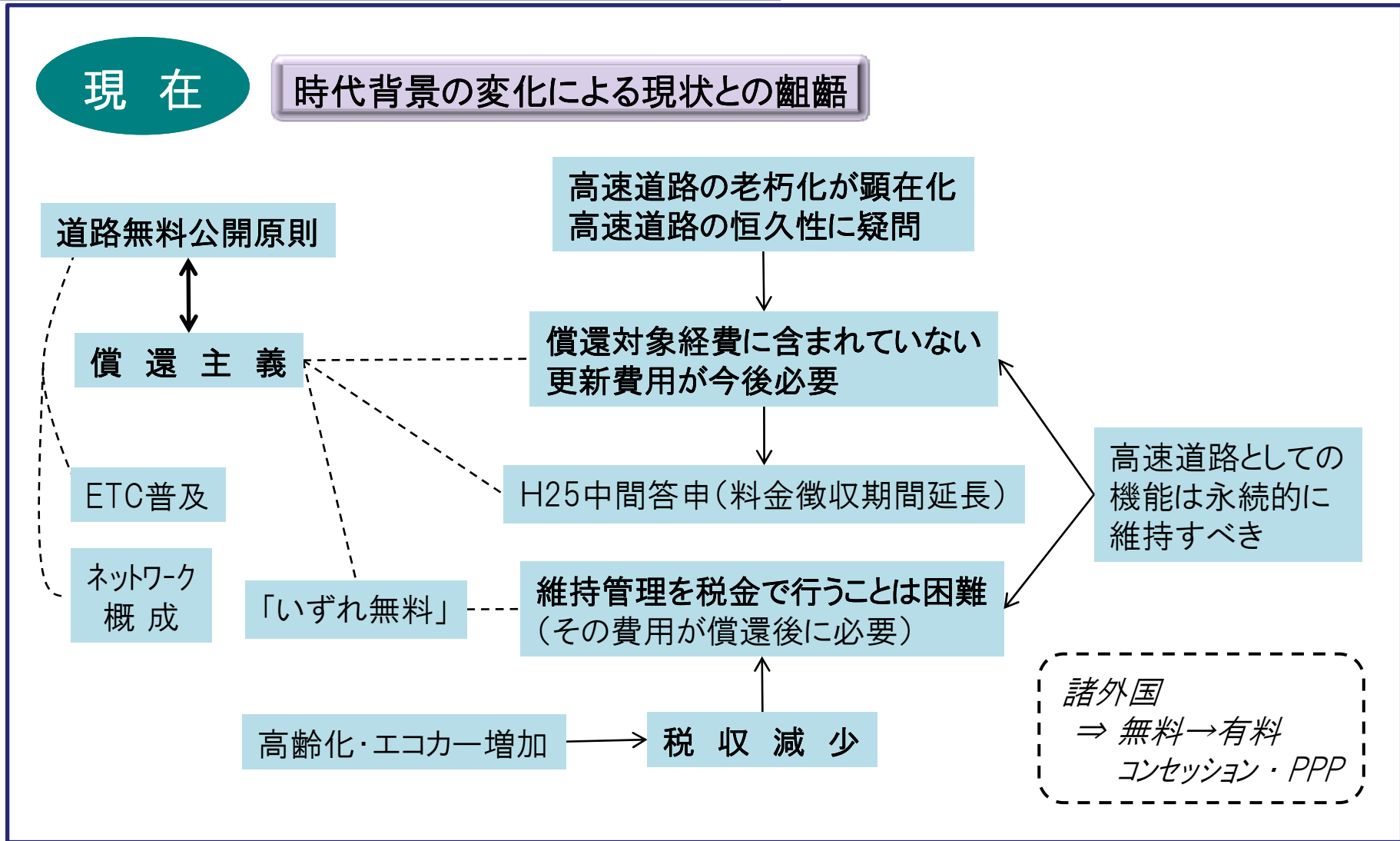
3. 中間整理以降の研究について

◆ 時系列による整理 ① ～過去～



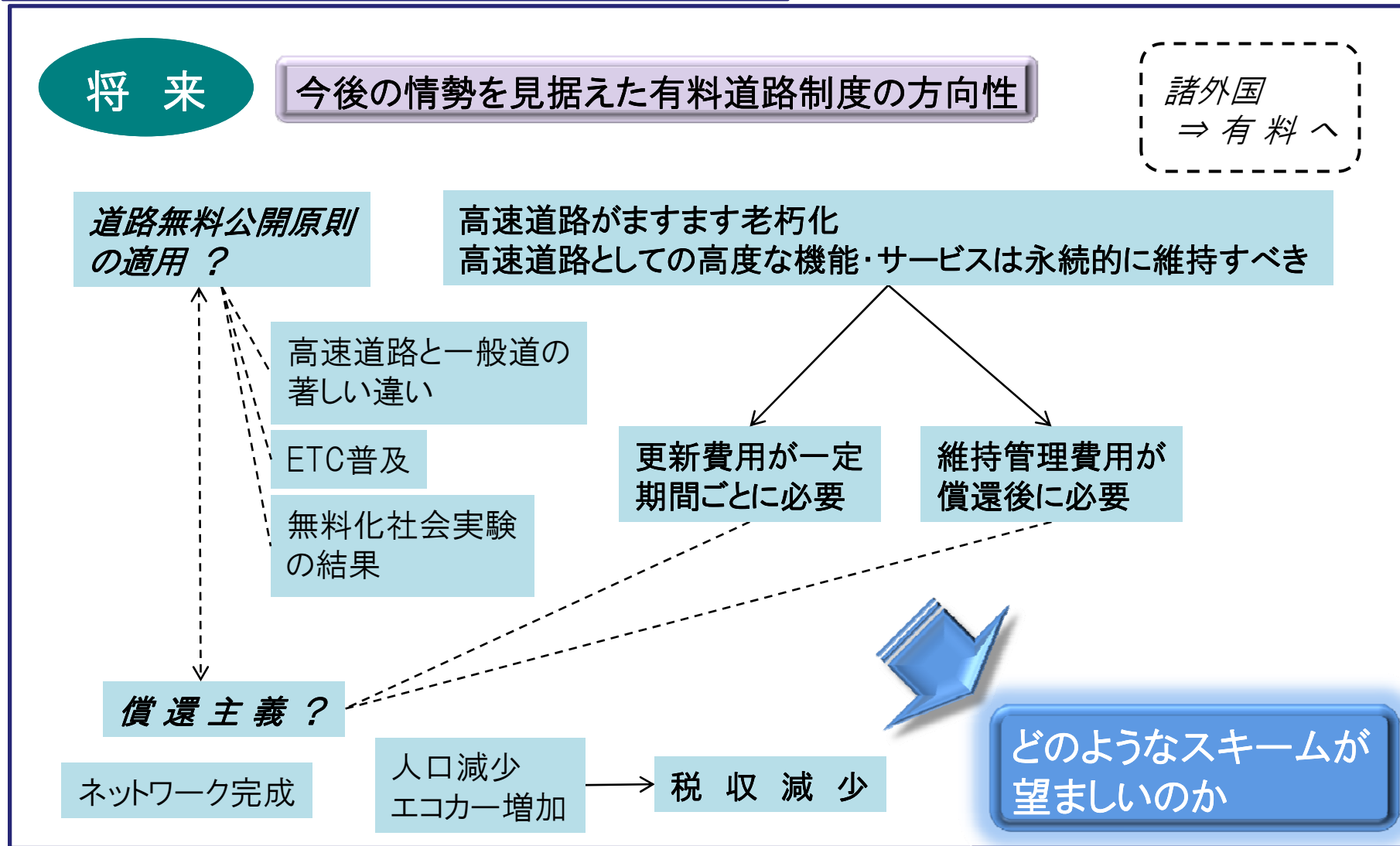
3. 中間整理以降の研究について

◆ 時系列による整理 ② ～現在～



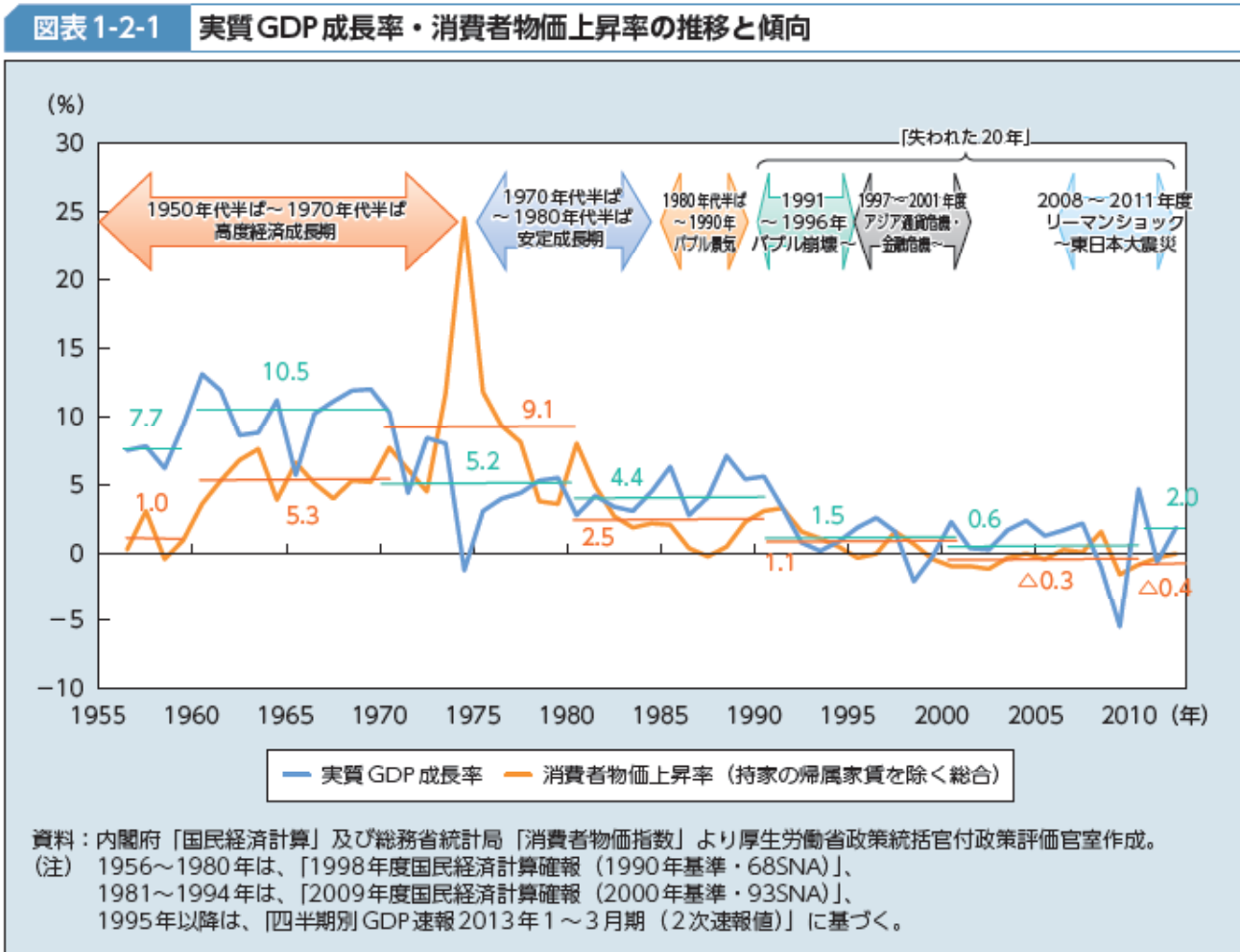
3. 中間整理以降の研究について

◆ 時系列による整理 ③ ～将来～



3. 中間整理以降の研究について

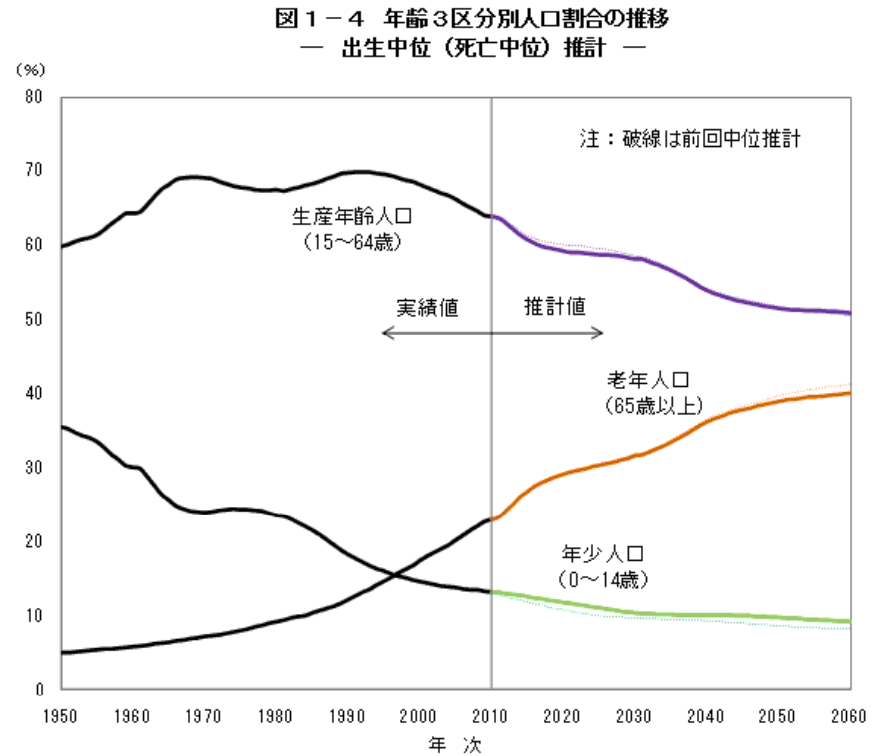
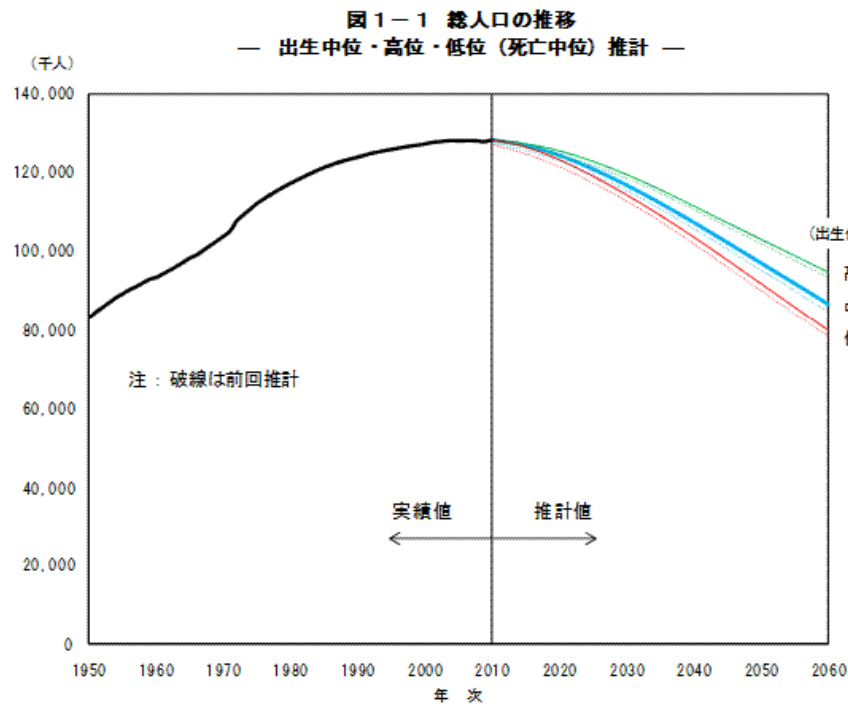
◆ 時系列による整理（参考① GDP成長率の推移）



〔出典：厚生労働省 平成25年版厚生労働白書〕

3. 中間整理以降の研究について

◆ 時系列による整理（参考②） 人口の推移



〔 出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成24年1月推計） 〕

3. 中間整理以降の研究について

◆ 時系列による整理（参考③） エコカー保有台数の推移

電気自動車等保有台数統計（推定値）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
PHV	0	0	0	165	379	4,132	17,281
EV	505	421	389	1,941	9,030	22,262	38,707
ハイブリッド 自動車	343,626	429,274	536,473	983,831	1,418,400	2,029,009	2,852,105
保有概算値 (合計)	344,100	429,700	536,900	985,900	1,427,800	2,055,400	2,908,100

注) 自動車検査登録情報協会データと各メーカーへのヒアリング調査による販売実績等による推定値

[参考：一般社団法人次世代自動車振興センター 電気自動車等保有台数統計（推定値）]

3. 中間整理以降の研究について

◆ 諸外国の最新情勢 ① ～無料から有料への動き～

全 般

(先進国)

高齢化・エコカー増加 → (燃料) 税込減少
インフラ老朽化 → コスト増加

公共財源によるインフラ整備が困難

有料道路制度の活用の進展

米 国

- ✓ 連邦補助道路における有料化の拡大
 - ⇒ ・元々は有料化を禁止 → 徐々に規定が緩和
 - ・既存のインターステート高速道路の改築も有料化可能という法案を提案 (今年4月)

- ✓ オレゴン州で成立した州法 (昨年7月)
 - ⇒ ・ガソリン税 → 対距離課金 (+税還付)
 - ・乗用車など5,000台対象、2015年までに導入

3. 中間整理以降の研究について

◆ 諸外国の最新情勢 ② ～無料から有料への動き～

フランス

- ✓ 重量貨物車に対する対距離課金（エコタクス）
⇒ ・今年頭に導入予定 → 無期延期
・対象は全国道と転換可能な地方道（約15千km）

イギリス

- ✓ 重量貨物車課金を導入（今年4月）
⇒ ・対象は国内全道路
・対距離制ではなく、期間制

ドイツ

- ✓ 重量貨物車課金の対象道路の拡大や乗用車課金を検討（既にアウトバーンなどにGPS課金導入済み）

イギリスとドイツでは導入できたのに、なぜフランスは失敗したのか？
⇒ ・導入理由の打ち出し方の違い（負担の公平性 vs. 地球環境問題）
・自国車両への燃料税還付措置の有無

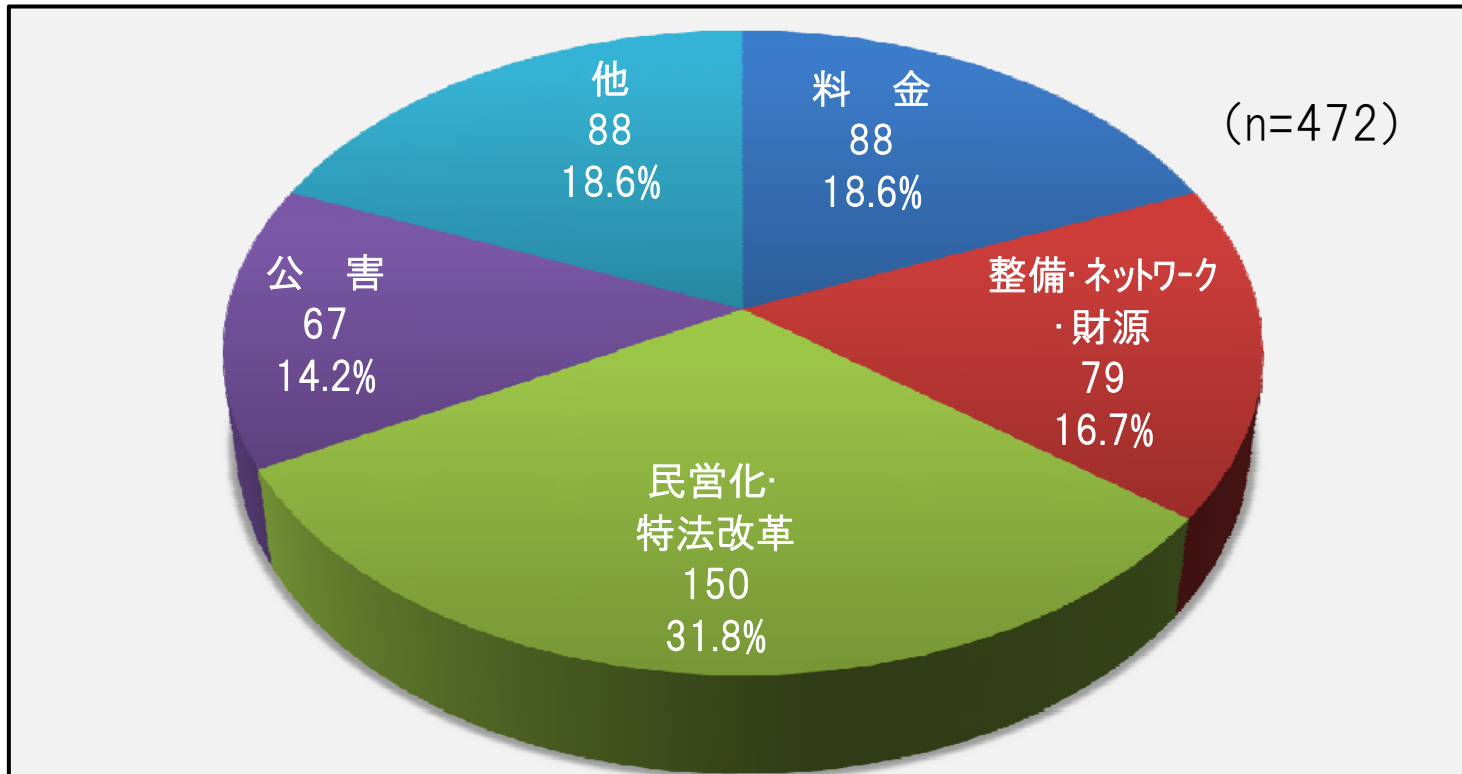


国民への説明方法が大きなポイント

3. 中間整理以降の研究について

◆ 新聞報道の調査 ①

高速道路に関する新聞記事（社説） 内容内訳

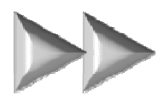
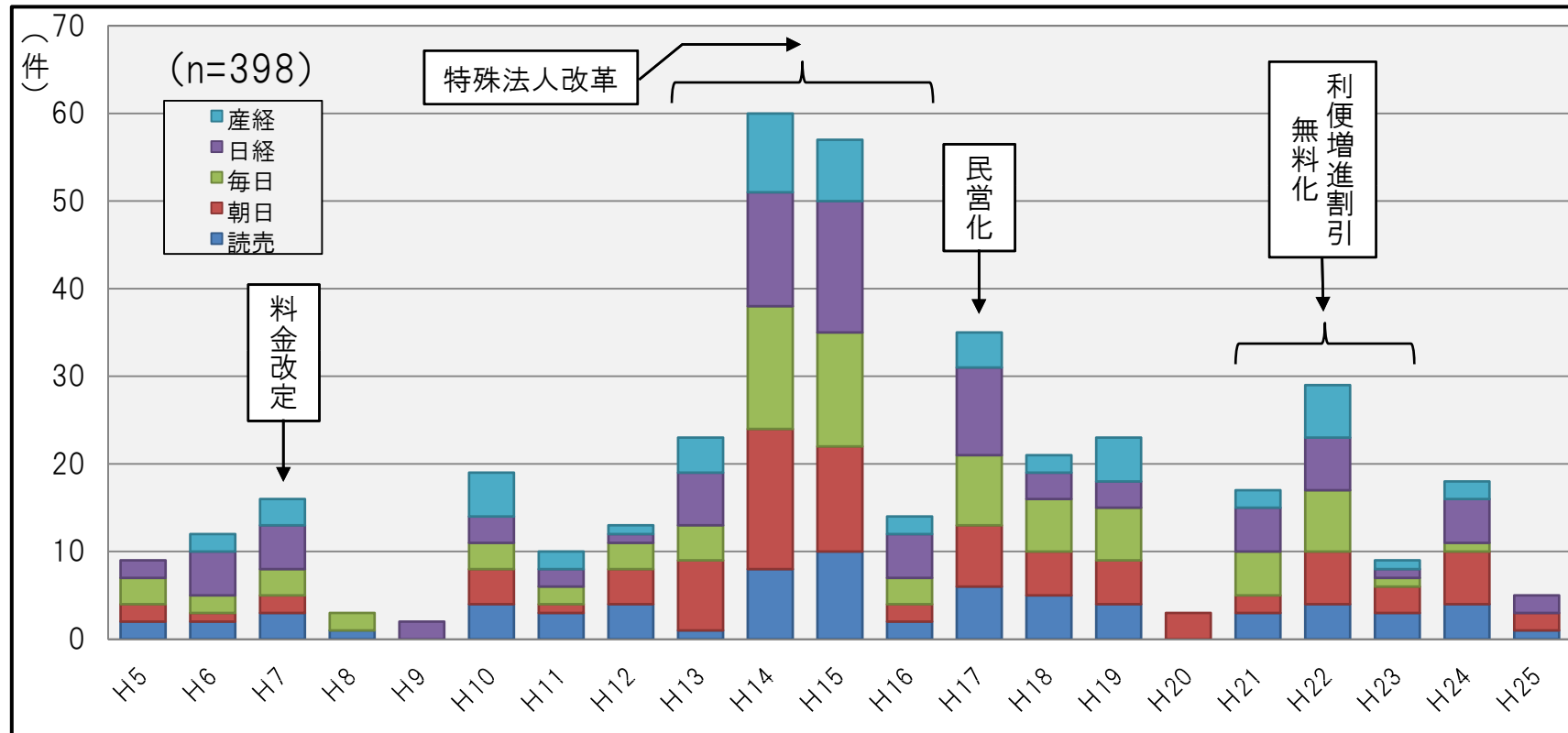


※・主要全国紙5紙の社説で、「高速道路」「道路公団」を含むもの
・S31～H25.6の調査可能分

3. 中間整理以降の研究について

◆ 新聞報道の調査 ②

高速道路に関する新聞記事（社説） 件数推移

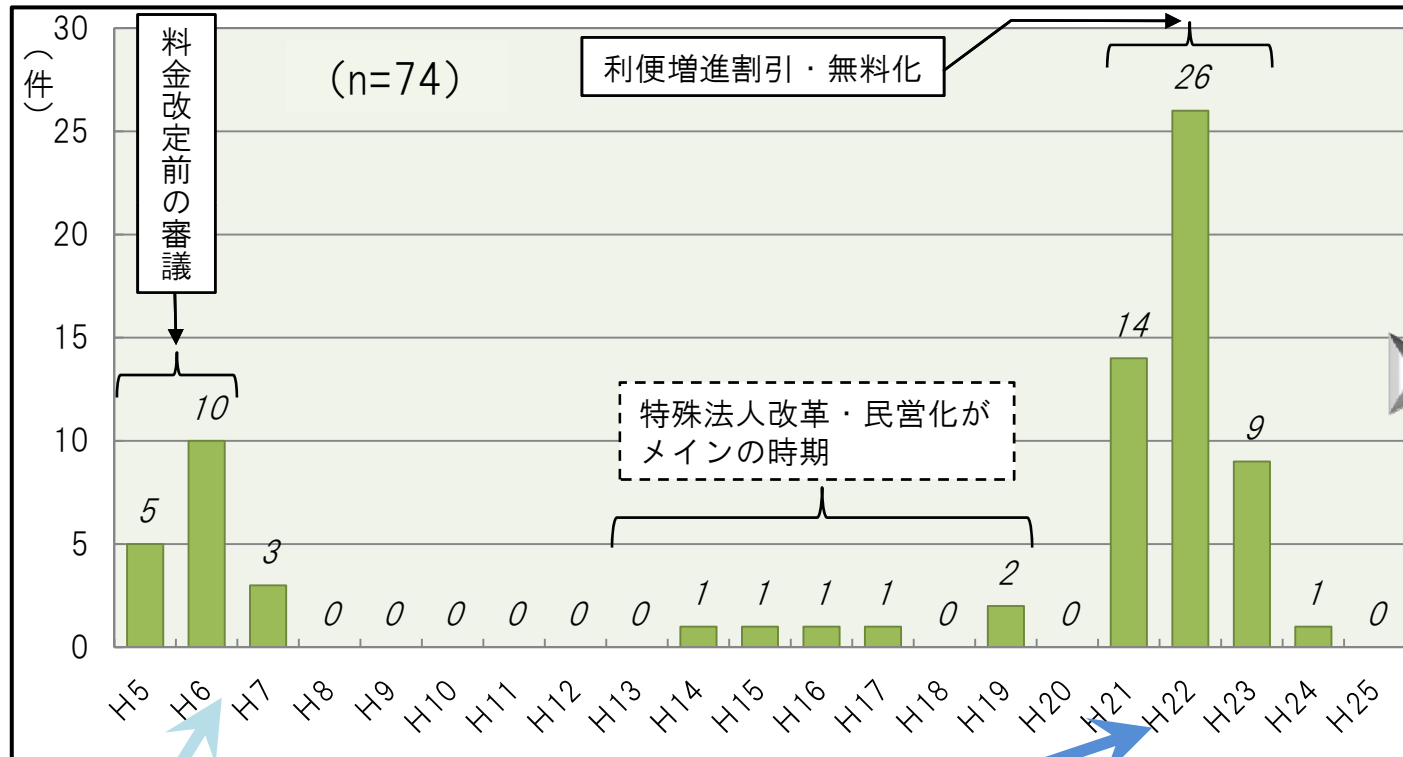


大きなイベント（料金改定、特殊法人改革、無料化社会実験など）の前後に件数のはね上がる傾向

3. 中間整理以降の研究について

◆ 新聞報道の調査 ③

高速道路料金に関する新聞記事（社説） 件数推移



過去と近年を比較すると
論調の変化が読み取れる

この時期の見出しの例
『高速道路の値上げを抑えたい』
『値上げより制度改革が先の高速道路』
『問題未解決で高速道路値上げ』

この時期の見出しの例
『多くの疑問がある高速道路の無料化案』
『高速の無料化はもうやめよ』
『高速新料金 問題だらけの値下げだ』

本日の発表

1. 高速道路の料金制度に関する研究委員会
2. 料金制度を取り巻く情勢と課題
3. 中間整理以降の研究について
4. 今後の研究について

4. 今後の研究について

◆ 検討から得られた基本的論点

- 高速道路の永続性を担保するためには、今後どのような制度（財源）が望ましいか
- 道路無料公開原則を高速道路に適用することの是非について、検討の余地はないか
- 諸外国の潮流は無料から有料へ
- 国家的視点から高速道路を見る場合、国費による一定の負担について検討の余地はないか
- 制度や枠組みについて、どのようにすれば社会に受け入れられるか（社会的受容性）

4. 今後の研究について

◆ 報告書の構成 (案)

導入期の有料道路制度

当時の(社会)情勢
道路無料公開原則、償還主義、など

現在の有料道路制度

取り巻く(社会)情勢と諸課題
高速道路インフラの老朽化、など

諸外国の有料道路制度

老朽化、無料から有料への潮流、など

将来の有料道路制度

(社会)情勢の変化、高速道路に求められる機能
様々なスキームの検討、など



整理 (有料道路制度のあり方)

『高速道路制度あれこれ』 —法制度・料金制度関連用語集—

H25.3に試行版を公開

目 的

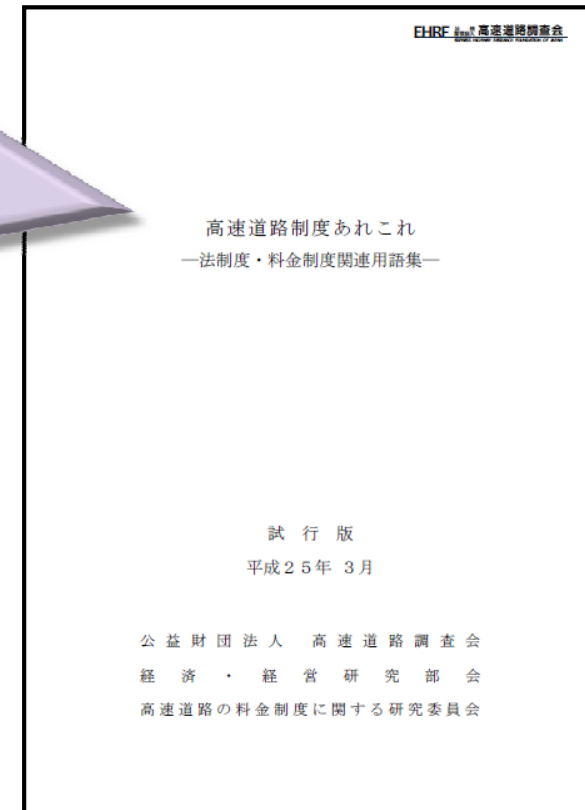


専門的になりがちな高速道路の
諸制度に関する各種用語を広く
ご理解いただく

(用語数 : 約90語)



H26.4.1新料金などをふまえ、改訂版を作成中



ご 清 聴 ありがとうございました

本日ご紹介した、当委員会の『中間報告書』
『高速道路あれこれ』は、[当法人のホームページに
掲載](#)しておりますので、ぜひご覧ください。